

金融の学びで未来を拓け!

日経STOCKリーグは、中・高・大学生を対象にした金融・経済学習コンテスト。参加学生は経済や株式投資について勉強しながら、企業を知り、社会を見る目を養うことができるプログラムです。このほど受賞各賞の表彰式が行われました。



**最優秀賞
金融担当大臣賞**

「RE-BRANDING! ~日本産食品を世界の「あたりまえ」に~
同志社大学 経済学部 新関三希代ゼミ 3年



**部門優秀賞
中学部門**

「メタバース×金融」
筑波大学附属駒場中学校 3年



**部門優秀賞
高校部門**

「末病 ~No Sickness in the Future~
神奈川県立相模原中等教育学校 5年



**部門優秀賞
大学部門**

「Systematic Optimal Mobility」
東京大学 経済学部 首藤昭信ゼミ 3年

敢闘賞

筑波大学附属駒場中学校 3年
「新資源CO2が新時代を築く」
女子学院高等学校 1年
「シン・キョウイク
~個別最適な学びへの道~」

青森県立青森高等学校 1・2年
「Let the New wind Blow
~エネルギーに新たな風を起せせ~」
横浜市立横浜サイエンスフロンティア
高等学校 1年
「WHY SAF?」
同志社大学 経済学部 新関三希代ゼミ 3年
「Material Innovations」

アイデア賞

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 3年
「しとく?すとく ~食を備蓄で明るく~」
富士見中学校 3年
「Five Senses Company~色のある世界を取り戻せ~」
立教池袋高等学校 2年
「THE WAY OF SPACE」
東京大学 経済学部 首藤昭信ゼミ 3年
「DYNAMIC SERENDIPITY」

ルーキー賞

調布市立神代中学校 2年
「未来を担う発電 ~洋上風力発電で向上する電力~」
立命館守山高等学校 3年
「女性アスリートを支える社会を創る方法」
審査委員特別賞
京都大学 経済学部 砂川伸幸ゼミ 1年
「STOCK DUNK ~インバウンドを獲れ~」

NOMURA Award (特別賞)

これまで日経STOCKリーグを通して、金融・経済教育の普及にご尽力いただいた指導教諭(教員)の方を表彰します。
【中学】 広尾学園中学校・高等学校 町田 貴弘 教諭
【高校】 新潟県立新発田商業高等学校 蟻塚 宰子 教諭
【高校】 明治学院高等学校 藤田 育宏 教諭
【大学】 新潟大学 濱田 弘潤 教授
【大学】 千葉大学 大銀 崇 准教授



4年ぶりリアル開催
バーチャル株式投資システムを使った日本経済新聞社主催の金融・経済学習コンテスト「日経STOCKリーグ」の第23回表彰式が2023年3月18日、都内会場とオンラインのハイブリッド形式で開催された。リアルでの開催は実に4年ぶり。会場には感染症対策徹底のもと、1800チームから賞に選ばれた学生と関係者の総勢約1300名が集まり、互いの力をねぎらった。

表彰式では審査員による講評も実施された。審査委員長の慶應義塾大学教授吉野直行氏は「日本経済強化の視点に基づいたテーマ設定やデータ分析が素晴らしい。数理的な解析は日本の強みでもあるが、語学力が身につけば情報収集の力もさらに飛躍する。今後英語



第23回 日経STOCKリーグ表彰式
日経ホール

経済の現場体験し、世界で勝負



努力の結果に、誇りと自信を
野村ホールディングスコンソリテーツカンパニー長 サステナビリティ推進兼 金融経済教育担当 鳥海 智絵氏
野村グループは企業理念の「金融資本市場を通じて、真に豊かな社会の創造に貢献する」のもと、次世代を担う若者の正しい投資理解を旨とし、日経STOCKリーグに第1回から協賛している。毎回、内容のレポーターからは、社会に貢献する企業への応援の気持ちを強く感じた。特別協賛企業として誇らしい一方、野村グループも若者に選ばれる企業として、また一歩が高まる金融経済教育の普及を一層進めていく。



の習得や地方創生の意識、感謝の心を忘れずに、世界で勝負できる人材へ成長してほしいと学生を賞賛。ほかの審査員からも「経済活動の現場を体験し、自分の頭で未来について考えているレポートは印象に残った。これからも素朴な疑問を大切に」「講ませる力」を持ったレポートは、表紙デザインから本文の構成までのテーマが一貫している。問題意識にも実感が込められていたといった

アドバイスなどが送られた。最優秀賞に選ばれたのは同志社大学経済学部 新関三希代ゼミのチーム。「RE-BRANDING!」日本産食品を世界の「あたりまえに」と題したレポートでは、市場の安定性や持続性に加え、拡大する外需と輸出気運の高まりから、縮小しつつある国内食産業の新たな可能性に言及している。世界のニーズを捉えた輸出モデルのあり方や流通網にまで投資先を広げた着眼点が評価された。同チームは「答えのない問いに対する飢えが原動力」となった。この成果は仲間や先生との議論の結果であり、本レポートはまさしく、単なる知識だけでなく、知恵を身につける最高の学習機会をいただいたことに感謝したいと、謝辞を述べた。

